



Title	ガリア掲載論文一覧(創刊号-第30号)
Author(s)	
Citation	Gallia. 1991, 30, p. 89-97
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5381
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ガリア掲載論文一覧

(創刊号～第30号)

創刊号 (1953年)

パスカルの道——「パンセ」を中心に	和田 誠三郎
風に寄する讃歌	ジョヴァン・デュ・ペレー
フランス文学研究の一方向	竹友 藻風 訳
哲学と文学	伊吹 武彦
アラン・フルニエ——夢とノスタルジー——	澤 瀉 久 敬
コルネイユ (一) 恋愛	田中 栄一
マルローに於ける人間の問題	持田 坦
アメリカに於ける仏語学・仏文学に関する学位論文について	井上 二郎
	荘 保三郎

第2号 (1954年)

フロオベール研究——書翰を通して見たる彼の芸術——	和田 誠三郎
---------------------------	--------

第3号 (1955年)

パスカルと方法——(パンセ)を中心に——	和田 誠三郎
ラ・フォンテーヌの「寓話詩」の文体因子について (1)	林 和 夫
Alain 研究 I	原 亨 吉
ミュッセの芸術観	田中 栄一
「メリット」の体験	持田 坦
フランス文学批評の研究	向井 敏

第4号 (1958年)

パスカルの「冥想録」から——Pensée pascalienneについて——	和田 誠三郎
《La Veuve》の問題	持田 坦
真空の問題にあらわれたパスカルの自然観	赤木 昭三
ラシーヌ研究——(I) 悲劇性について	浅野 富美子
前期古典主義時代の劇と劇論——actionの単一性を中心として——	伊地智 均
Fr. Rabelaisにおける否定の補充詞について——Pas, point et analogues——	梅垣 浩一

第5号 (1960年)

L'Evolution des Cultures et le Sens de l'Homme dans le Musée Imaginaire d'André

Malraux

Jean Bégulier

前期古典主義演劇理論における action の問題

伊地智 均

モンテーニュに於ける人間的理性の観念

上 田 友 子

パスカルの数学論文についてのノート (1)

A. D. D. S. への手紙およびホイゲンスへの手紙をめぐって。運動学的な観点から。

原 亨 吉

第6号 (1961年)

EXAMEN DES TEXTES MATHEMATIQUES DANS LES ŒUVRES COMPLETES

DE PASCAL D'APRES L'EDITION DES GRANDS ECRIVAINS DE LA

FRANCE

Kokiti Hara

第7号 (1962年)

Les révoltes de Simone de Beauvoir et l'existence d'autrui

Jean Bégulier

パスカルの「パンセ」における予言に関する一考察

森 川 甫

LA FONTAINE の自由間接話法

岡 野 輝 男

QUELQUES ADDITIONS A L'EXAMEN DES

TEXTES MATHEMATIQUES DE PASCAL

Kokiti Hara

第8号 (1968年)

古代フランス語の自由間接話法

岡 野 輝 男

Isabelle ou Le Journal amoureux d'Espagne は Madame de La Fayette の

作品だろうか? — Isabelle ou Le Journal amoureux d'Espagne,

La Princesse de Clèves 及び Zaïde に出現する語彙の比較——

福 田 富 子

Madame Bovary 研究——色と心理——

難 波 崇 子

「感情教育」におけるクロノロジーとフローベールのリアリズムについて

中 島 真由美

BALZAC におけるユートピア的世界像の形成と階級意識——「田舎医者」論——

草 壁 八 郎

第9号 (1969年)

イリュミナシヨンの初期作品の問題

泉 敏 夫

“UNE SAISON EN ENFER” ET “ILLUMINATIONS”

Atsuko Takaoka

第10, 11合併号 (1971年) 和田誠三郎教授退官記念号

<i>De l'origine des fables</i> の独創性	赤木昭三
Marivaux劇とDancourt劇における娘たち	赤木富美子
<i>Cinna</i> における国是 <i>raison d'Etat</i> の確立	伊地智 均
SUR LA SOURCE DU BATEAU IVRE	Toshio Izumi
ランボオ私見——Arthur Rimbaud——	上野茂男
現代詩への架橋——ボオドレエルからマラルメへ——	上村邦子
古代フランス語における自由間接話法のいわゆる「近代的用法」について	岡野輝男
芥川龍之介に見るプロスペル・メリメ——「秋」と「二重の誤解」をめぐって——	
	柏木隆雄
RACINEの作品における <i>Antithèse</i> について	高岡幸一
Paul Eluard avant Paul Eluard	宝子伸治
初期の「エッセー」におけるエッセイエの方法	竹田英尚
劇について——パスカル論序説のためのノート——	田辺 保
「人間喜劇」における神と悪魔	中村加津
十字架の道	ポール・クロードル 中村篤子訳・解説
Proustの芸術的本質を表わすイマージュと作品構造——内容と形式の一致——	
	長谷川 富子
PASCAL ET WALLIS AU SUJET DE LA CYCLOIDE (II)	Kokiti Hara
『聖アントワヌの誘惑』覚書——その二、ある未定稿をめぐって——	平田 靖
モンテーニュ研究の歴史——ヴィレーおよびボルドー市版以後;	
モンテーニュ研究の問題と視点——	広島敏史
悲劇の終焉—— <i>SOPHONISBE</i> 論争によせて——	持田 坦
西田哲学のパスカルへの共感	森川 甫
COMMENT PEUT-ON ETRE PERSAN?	J.-L. Rousse

第12号 (1972年)

MARIE DE FRANCE——人物と作品の成立順——	大高順雄
<i>Les Nouvelles françaises</i> (1623) の新しさ	田子島屋 和子
二人の怪異作家——泉鏡花に見るプロスペル・メリメ——	柏木隆雄
ヴァレリーの詩と建築——“海辺の墓地”をめぐって——	長谷川 富子

第13号 (1973年)

<i>Le Palais d'Angélie</i> の魅惑と興味	田子島屋 和子
Cyrano カルテジヤン (1)	赤木昭三

STRUCTURE SPATIALE DES TRAGEDIES RACINIENNES—LIBERATION D'UN
ESPACE CLOS DANS LA VIE INTERIEURE DE RACINE— Yasuko Takasima

モーリアック (1) モーリアックの思想構造 高瀬英彦

第14号 (1974年)

Cyrano カルテジヤン (2) 赤木昭三

パスカルの「三つの秩序」 永瀬春男

La Conscience historique de Voltaire Junko Takeda

マラルメにおける〈不毛性〉について 加覧伸彦

La Femme unique ou universelle dans la Poésie de Paul Eluard

—à travers la recherche de l'image de la "lumière"— Kazuko Nakajima

第15号 (1975年)

VIRGILE ET HESIODE—Notes sur l'allégorie de la *Renommée*

dans *l'Enéide* IV— Koichi Takaoka

La Signification morale dans *Les Nouvelles françaises* de Sorel Kazuko Orita

LA COURBE SENTIMENTALE—Etude sur *l'Education Sentimentale*—

Kayoko Kashiwagi

第16号 (1976年)

L'ETUDE DES RIMES DANS LES LAIS DE MARIE DE FRANCE Yoshitaka Haruki

モンテーニュの思索の歩み——『エッセー』の構造とその論理に見る——

——(その九)—— 竹田英尚

LA COSMOLOGIE DE PAUL CLAUDEL Junko Okuda

La Structure esthétique d'*Aventures de Jérôme Bardini* de Giraudoux

Kazuyo Nakayama

モーリアックの回心をめぐって

柏原紀久子

モーリアック (2) モーリアックの〈enfance〉考

高瀬英彦

第17号 (1977)

ボオドレエルにおける白鳥神話の位置

上村邦子

Images métaphoriques dans les *Poésies* d'Arthur Rimbaud

Atsuko Takaoka

シモーヌ・ヴェーユ——その自由観と現代文明批判——

宮川文子

Analyse formelle du récit dans *L'Etranger* d'Albert Camus

Kikuko Tachibana

第18号 (1978年) 岸本通夫教授退官記念号

UN TEXTE MECONNU SUR L'ATTRIBUTION DE *L'HISTOIRE*

COMIQUE DE FRANCION

Shozo Akagi

フランス語肯定文のイントネーションについて——名詞句に焦点をあてて——

初期マラルメにおける白鳥神話

「bobéobi」の“意味”——フレイブニコフと詩的言語——

カタロニアの文学

クロードルにおける《フォルム》の概念について

『聖アントワヌの誘惑』における霊と肉

『ウジェニイ・グランデ』献辞考

ランボーの形而上学的闘争

マラルメの想像的太陽——金髪詩篇をめぐる——

REMARQUE SUR LA METAMORPHOSE DE *LA JEUNE PARQUE* Takashi Sasabe

ANALYSE SEMANTIQUE STRUCTURALE DE L'ŒUVRE D'ALBERT CAMUS

Kikuko Tachibana

草稿ノート3の光の記述——『失われた時を求めて』の創造過程の一面について——

『三つの物語』の構図

ロートレアモンに於ける悪

シモーヌ・ヴェーユのキリスト教観——近代科学との関係から——

L'UNIVERS DE VILLIERS DE L'ISLE-ADAM DANS SES CONTES——UNE

ETUDE SUR LE RAPPORT ENTRE LA TECHNIQUE ET LE THEME——

Hiroko Mukudai

第19号 (1979年)

デカルト『幾何学』への幾つかの新しい注

サン・テヴルモンの歴史観

ロマン主義詩人と白鳥神話

SUR L'ARRANGEMENT DES POEMES DANS *LES FLEURS DU MAL*

『純な心』と『エロディ阿斯』——『三つの物語』の制作意図を考える——

MARGUERITE DURAS ET LA DESTRUCTION CAPITALE (1)

Nobuko Miyake

金崎 春幸

Henri Micciollo

第20号 (1980年)	
ジャン・ド・シヨンに於ける証明の問題	永瀬春男
ネルヴァルにおける祝祭の観念——《 <i>Voyage en Orient</i> 》=祝祭の中の旅——	七尾誠
ボードレールにおける《海》の変貌——『悪の華』から『パリの憂愁』へ——	北村卓
「車窓の夜明け」の4つの草稿——モチーフの増殖と変貌——	吉田城
LE CHANGEMENT DE POINT DE VUE DANS A LA RECHERCHE DU TEMPS PERDU	Akio Wada
MARGUERITE DURAS ET LA DESTRUCTION CAPITALE (2)	Henri Micciollo
第21, 22合併号 (1982年) 原亨吉教授退官記念号	
ROHAULT, DESCARTES ET <i>FRAGMENT</i> <i>DE PHYSIQUE</i> DE CYRANO DE BERGERAC	Shozo Akagi
LA FONCTION MORALE DU RECIT ESOPHIQUE DANS LES <i>FABLES</i> DE LA FONTAINE	Keiko Ishii
論説詩の崩壊——ロンサールの転機——	岩根久
ヴァレリーの時間意識	岩間正邦
Montaigneにみられる実存的思想の萌芽	上田友子
象徴形成論の射程	枝川昌雄
POUR RESTITUER LES MOTS ABREGES MANUSCRITS	Yorio Otaka
プロパガンダのストラテジー——ガルガンチュワの変貌と構成について——	鍛冶義弘
FLAUBERT ET LE THEATRE	Kayoko Kashiwagi
LE ROLE ET LA SIGNIFICATION DU CELIBATAIRE DANS <i>PHYSIOLOGIE DU MARIAGE</i>	Takao Kashiwagi
モーリヤックにおける engagement と創作活動に関する一考察	柏原紀久子
LES PONTS DANS <i>L'EDUCATION SENTIMENTALE</i>	Haruyuki Kanasaki
ボードレールの散文詩『孤独』に関する考察 ——「ラ・プレス」紙の「校正刷」をめぐって——	北村卓
Nervalの晩年の作品に見られる自伝性の問題	小林宣之
『ボヴァリー夫人』と当時の女性の状況	小山美沙子
LUIGI RICCOBINIの催涙喜劇擁護	末次義
マラルメの <i>Contes indiens</i> —— その書き換えのテクニックについて ——	高岡厚子
NOTES SUR L'EMPLOI DE L'ADJECTIF <i>LAETUS</i> CHEZ VIRGILE	Kooichi Takaoka
サン・テヴルモンの老年	竹田順子
ヴィレーの『エッセー』研究に対する一小批判	竹田英尚

LECTURES STRUCTURALES DU *RENEGAT*ET DE *LA CHUTE* D'ALBERT CAMUS

Kikuko Tachibana

UNE ANALYSE DU "ROMAN" D'ANDRE GIDE

『東方の認識』における太陽のテーマ

Nobuko Tatekawa

ジャン・ド・シヨンと「知慮」の概念——護教論と政治論の接点——(その1)

永瀬 春 男

バルザック『人間喜劇』における『十三人組物語』の意義

中 村 加 津

クロード・デルの百扇帖について

中山 篤 子

*Les Filles du Feu*における《幽閉》のテーマと叙述構造

七 尾 誠

ブルーストの内的世界とジョットの寓意画

長谷川 富 子

RESIDU DE L'ANALYSE GRAMMATICALE——IMPERSONNEL

DISCURSIF DU FRANÇAIS——

Yoshitaka Haruki

ヴィクトル・ユゴー『死刑囚最後の日』を廻って

前 田 俊 一

シモーヌ・ヴェイユの「作家の責任」をめぐる

宮 川 文 子

LA CRITIQUE D'ART DE BAUDELAIRE ET LAVATER

Nobuko Miyake

ヴィニーの想像的空間(Ⅲ)——Idéesをめぐる——

向 井 邦 夫

カルヴィニストとジェズイットの論争——パスカルの『プロヴァンシアルの手紙』

に対するヌエ神父の反駁文書に関連して——

森 川 甫

ブルーストと性的風景

吉 田 城

『失われた時を求めて』における glissement の機能

和 田 章 男

第23号 (1983年)

ROHAULT, DESCARTES ET LE *FRAGMENT DE PHYSIQUE*DE *CYRANO DE BERGERAC* (2)

Shozo Akagi

「ファチーノ・カーネ」小考

柏 木 隆 雄

Angélique——Nervalの最初の自伝——

小 林 宣 之

*Les scènes à la manière d'Henry Monnier*dans *la Première Education Sentimentale*

Kayoko Kashiwagi

フローベールの作品における光——『ボヴァリー夫人』の場合——

小 山 美 沙 子

Un sonnet souvent décrié des *Fleurs du Mal*: *La Cloche fêlée*

Agnès Disson

*Les Faux-Monnayeurs*への過程

立 川 信 子

シモーヌ・ヴェイユの労働観——その主知的側面——

宮 川 文 子

第24号 (1984年)

ラブレーの笑いに関する一考察

- 『パンタグリュエル』の三つの挿話をめぐって—— 鍛 治 義 弘
 ラ・フォンテーヌ、『ペストにかかった動物たち』における円環構造 石 井 啓 子
 MODERNITE DE VERLAINE: UN POEME, CHARLESROI Agnès Disson
Délires II——*Alchimie du verbe*の一節への一解釈 小 谷 征 生
 アンドレ・ジッドの四つのレシの構成について 打 田 素 之

第25号 (1985年)

- 白いヘレネーと黒いヘレネー (その一) 上 村 くにこ
 Julien Sorelのhypocrisieと読み手の問題 粕 谷 雄 一
 ネルヴァルにおける《flânerie》(1) 七 尾 誠
 ボードレールにおける散文詩制作の過程——1855～1862—— 北 村 卓
 Derniers récits ou nouveau roman? —— Analyse des 《histoires》 Motoyuki Uchida
 dans les sept récits d'André Gide ——
 シモーヌ・ヴェイユの労働観——工場体験と新たな方向—— 宮 川 文 子

第26号 (1986年)

- 白いヘレネーと黒いヘレネー (その二) 上 村 くにこ
 La première version imprimée de *Du Bonheur de Fontenelle* Shozo Akagi
 スタンダール『恋愛論』における「恋人の長所」の实在性をめぐって 粕 谷 雄 一
Les Nuits d'octobre——仮装された自伝—— 小 林 宣 之
*Une saison en enfer*における*Délires I*——*Vierge folle*の二重の働き 小 谷 征 生
 シモーヌ・ヴェイユの労働観——美とのかかわり—— 宮 川 文 子
 使役構文について 木 内 良 行

第27号 (1987年)

- Qu'est-ce qu'ils ont vu du haut de Paris? —— Sur le destin des héros balzaciens: Eugène de Rastignac et Lucien de Rubempré—— Takao Kashiwagi
 『マルドロールの歌』の《ナラシオン》——『第一の歌』の受取人の問題—— 寺 本 成 彦
 『狭き門』における三角形と四角形——レシの象徴的解釈—— 打 田 素 之
 使役構文について (二) 木 内 良 行

第28号 (1988年)

- La figure du diable chez Noël du Fail: les *Contes et Discours d'Eutrapel* Marie-Claire Bichard
*Hécatombe à Diane*の世界 浜 田 明

- Armance* ou la construction oblique Yuichi Kasuya
 ボードレールにおけるバルザック観の変遷 金 崎 博 子
 イリュミナシオン『暁』について 小 谷 征 生
 La métamorphose d'Orphée chez Cocteau— Sur le passage du
monde des vivants au *monde des morts*— Kazuyuki Matsuda
- 第29号 (1989年)
- 『人間喜劇』の序をめぐる——バルザックとロマン主義管見—— 柏 木 隆 雄
 『ボヴァリー夫人』における〈pyramide〉と〈papillons〉について 戸 田 幹 夫
 Sur *Isis* de Villiers de L'Isle-Adam Hiroko Konishi
 Le mythe caché derrière les faits et l'histoire d'*Isabelle* Motoyuki Uchida
 ロブ＝グリエ『消しゴム』における虚構創造の問題 神 田 修 悦
 使役構文について——移動を表す動詞の場合—— 木 内 良 行
- 創刊30号記念号 (1990年)
- Remarques sur Balzac et Viellerglé Hachiro Kusakabe
 Baudelaire critique d'art—— du Salon de 1845 au Salon de 1846—— Hiroko Kanasaki
 ボードレールにおける「反＝宗教」の思想——「聖なる売春」と
 『悪の華』の詩学—— 徳 永 文 和
 Villiers de l'Isle-Adamの作品に隠された意味 小 西 博 子
 Rimbaud et Jules Verne—— Au sujet des sources du *Bateau Ivre* Atsuko Takaoka
 Sur les images de la lumière dans *Le Soulier de Satin* Atsuko Kimura
 『ドルジェル伯の舞踏会』試論 松 田 和 之

第6号以降は残部があります。お入り用の方は号数、部数明記の上お申し込み下さい。普通号 500 円、記念号 1000 円（送料別）です。